

お客様とよりそって100年へ



PRONEXUS HISTORY

Vol.8

※バックナンバーは、当社Webサイトよりご参照ください



1990年代

1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030

株式公開と コンサルティングの強化



ディスクロージャー実務セミナーの様子

1990年代、関係法令に関する専門コンサルティングを基盤に確立したディスクロージャー・ビジネスに加え、IR*支援へ事業領域を拡大した当社は、さらなる成長のため株式公開を目指しました。

株式公開に先立ち、当社は自社情報を積極的に開示する方針を掲げ、1993年7月に独自の情報誌「ASP通信」を発刊しました。本誌は自社の実績をタイムリーにPRするとともに、最新のディスクロージャー関連情報や各社のIR事例を提供するメディアとして多くのお客様にご活用いただきました。

さらに1995年3月には「ディスクロージャー実務研究会」を発足。本研究会は上場会社およびIPO志向会社を対象に、株式上場・ディスクロージャー・IRの各分野における実務ノウハウを提供するコンサルティング体制を構築し、お客様から高い評価をいただきました。

このような取り組みを通じて強固な企業基盤を築き上げた結果、1994年7月に店頭公開、1996年9月には東京証券取引所市場第2部へと上場し、株式公開を実現しました。株式公開はディスクロージャー・ビジネスを切り拓いてきた当社の価値を広く証明するものとなりました。

※Investor Relationsの略称。投資家向け広報のこと。

株式会社プロネクサス 〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号 汐留ビルディング5階

創業 1930年12月15日
設立 1947年5月1日
資本金 30億5,865万500円
主な事業内容 情報開示・IRをはじめとしたコーポレートコミュニケーション支援
従業員数 1,796名(連結) 933名(単体) 2026年3月末現在



株主の皆様へ

第82期 年次報告書

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日

プロネクサス公式Xを
はじめました!

プロネクサス公式X
https://x.com/PNX_PR



詳しくは中面P.9をご覧ください

株式会社プロネクサス

証券コード:7893(東証プライム)

PRONEXUS



「コーポレートコミュニケーション支援」 会社への進化を目指します

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに当連結会計年度のご報告を申し上げます。

連結売上収益の概況

当連結会計年度においては、昨年8月に連結子会社化した株式会社JBAホールディングスの売上が同年9月より計上されたことに加え、根強い業務効率化ニーズにより決算支援・開示書類作成に係るアウトソーシングサービスが増収となりました。また、当社連結子会社である株式会社シネ・フォーカスにおける医学会や企業関連のイベント支援の受注が拡大しました。さらに、当社主力製品である株主総会招集通知は電子提供制度の緩やかな進展により印刷ページ数が減少したものの、個人投資家数の増加に伴う印刷部数の増加により、マイナス影響を補い増収となりました。これらの結果、当連結会計年度の連結売上収益は、前年同期比1,825百万円増(同5.9%増)の32,821百万円となりました。

利益の概況

M&Aや開示書類作成支援システムのバージョンアップ、営業体制強化等により費用は増加しましたが、前年同期に連結子会社ののれんに係る減損損失2,503百万円を計上した反動増により、営業利益は前年同期比2,697百万円増(同1,291.3%増)の2,906百万円となりました。また、前年同期に計上した持分法適用関連会社の全株式譲渡に伴う持分法で会計処理されている投資の売却益1,411百万円の反動減が影響したものの、前述の減損損失の反動増がそれを上回り、税引前利益は前年同期比1,331百万円増(同79.1%増)の3,012百万円となりました。これらの結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は前年同期比1,657百万円増(同367.5%増)の2,108百万円となりました。

「新中期経営計画2027」業績目標を修正

2026年5月14日付で「新中期経営計画2027

(以下、新中計)」の2年目・3年目にあたる2027年3月期・2028年3月期の当初業績目標を上回る修正目標を公表いたしました。新中計では新たなビジネス領域の拡大を重点戦略として取り組んでおり、その一環として実施した前述のM&Aによる業績への寄与が主な修正の要因です。一方、当初想定に比べ主要顧客である上場会社数が減少し、一定のマイナス影響が見込まれることから、既存事業領域におけるシェア向上や英文翻訳・Webサービス等の成長分野のさらなる拡大、人財採用支援サービス等の新たなビジネス領域を確実にスケールさせていくことで、新中計の修正目標達成に向けて全力を尽くしてまいります。

配当方針の変更

資本効率を意識したより安定的な利益還元を実施するため、これまでの基準「連結配当性向原則50%以上」に加えて、新たな指標として「DOE(連

代表取締役社長
上野剛史

結親会社所有者帰属持分配当率)」を追加することにしたしました。詳細は10ページをご覧ください。

株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

●新中計業績目標

	2026年3月期		2027年3月期		2028年3月期	
	目標	実績	今回修正目標	当初目標増減	今回修正目標	当初目標増減
連結売上収益	31,800	32,821	34,000	+1,400	35,500	+1,500
営業利益	2,800	2,906	3,000	+100	3,200	+100
営業利益率	8.8%	8.9%	8.8%	△0.1pt	9.0%	△0.1pt
当期利益*	1,800	2,108	2,000	+100	2,100	+100
ROE	7.2%	8.7%	8.3%	+0.9pt	8.4%	+0.7pt

*親会社の所有者に帰属する当期利益

(単位:百万円)



2026年5月14日付公表
「『新中期経営計画2027』業績目標の修正について」も
あわせてご覧ください。
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7893/tdnet/2811634/00.pdf>

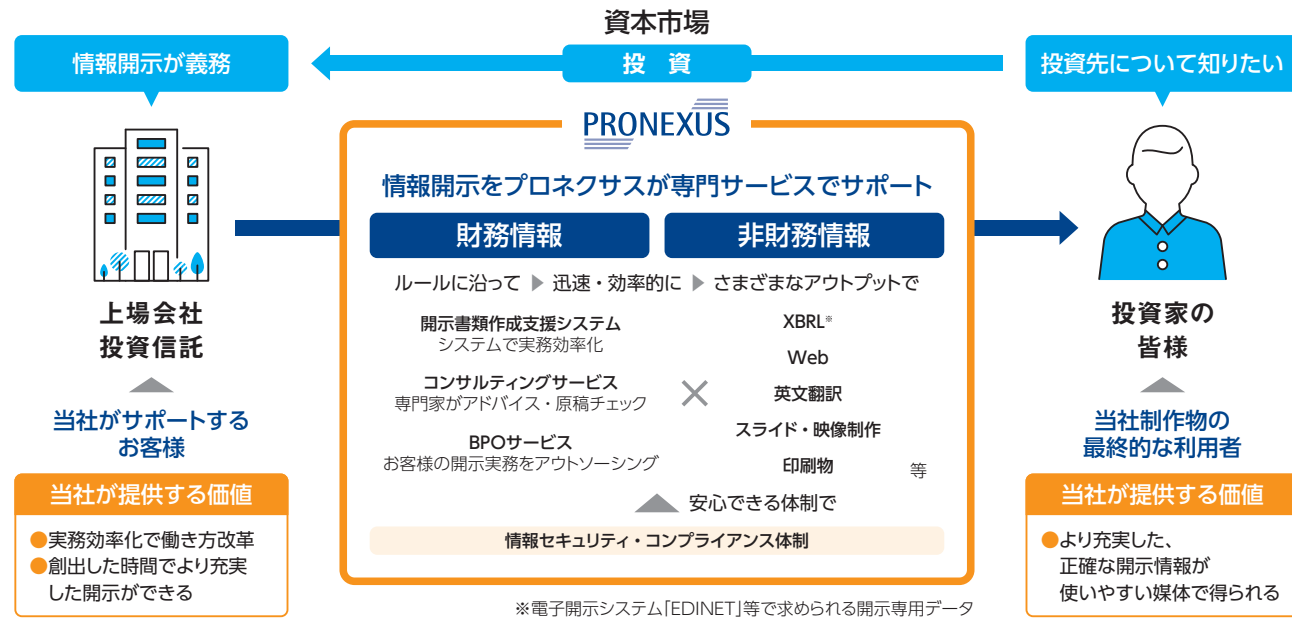


現在の当社の事業領域

情報開示のインフラとして、お客様を専門サービスでサポートしています

株主総会招集通知や決算短信、有価証券報告書、投資信託運用報告書等、株主の皆様にとって身近な開示書類作成を裏方として支援しています。

創業期に株券印刷で培った品質・専門性へのこだわりは、製造プロセス・サービスがIT化されても変わりません。当社の専門サービスによって正確かつ迅速な、より充実した開示が行われることを通じて、資本市場の健全な発展に寄与します。



既存サービスを強化しながら、新しいビジネス領域にも挑戦してまいります

人財採用支援ビジネス

既存のIR支援ビジネスで培ったノウハウを活かし、「企業価値を分かりやすく伝える」ためのサポートを行います。業務提携先との連携強化により採用ツールを中心とした受注促進を図ります。

イベント関連事業

2023年3月に株式会社シネ・フォーカスを連結子会社化し、既存の株主総会支援サービスおよび株主総会以外のイベント事業を強化してまいります。

製品区分別情報・今後の取り組み



上場会社向けビジネス

上場会社ディスクロージャー関連

株主総会書類作成支援／会計コンサルティング／決算開示書類作成支援／IPO・ファイナンス書類作成支援等

プラス要因

- ・2025年8月に行ったM&Aが業績に寄与
- ・決算支援・開示書類作成アウトソーシングサービスの増収
- ・個人投資家数の増加による招集通知印刷部数の増加

今後の課題・取り組み

- ・招集通知電子化対応サービスの機能強化・受注促進
- ・決算支援を中心に、開示・IPO・サステナビリティ支援等、幅広い領域のコンサル・BPOサービス拡大

14,072百万円 (13.1% ↗) 前年同期比

上場会社IR・イベント関連等

株主通信等英IRツール／Webサイト／株主総会等のイベント運営支援／セミナー事業 等

プラス要因

- ・イベント支援の受注拡大
- ・英文翻訳サービスの受注拡大
- ・人財採用支援等新たなビジネス領域の受注拡大

今後の課題・取り組み

- ・株主総会・IRイベントの受注拡大と企業イベントの販促体制強化
- ・新たなビジネス領域におけるアライアンス強化

10,916百万円 (2.4% ↗) 前年同期比



金融商品向けビジネス

金融商品ディスクロージャー関連

投資信託関連／J-REIT関連／外国投信・外国会社関連

マイナス要因

- ・投資信託販売会社向け販促ツールの受注減少
- ・目論見書・運用報告書の印刷部数減少

今後の課題・取り組み

- ・投信分野のペーパーレス化への対応
- ▶投資信託書類作成支援システムの機能拡張
- ▶Webを中心とした開示の周辺サポート

6,735百万円 (1.7% ↗) 前年同期比



大学・研究機関向けビジネス

データベース関連

企業情報データベース／経済統計データベース／ファイナンスデータベース

プラス要因

- ・既存顧客の単価アップ
- ・主要顧客である大学を中心とした新規顧客獲得

今後の課題・取り組み

- ・新規顧客の獲得 ▶ サービス提供領域の拡張

1,099百万円 (5.5% ↗) 前年同期比

2026年3月期
連結売上収益
構成比

42.9%

33.3%

20.5%

3.3%



Webサイト「業績・財務の概況」もあわせてご覧ください。
<https://www.pronexus.co.jp/ir/financial/>



M&Aを重要な 成長ドライバーと位置づけ 今後も積極的に検討

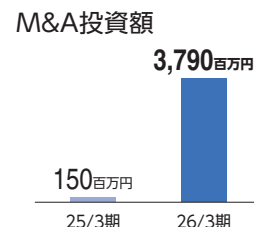
「新中期経営計画2027」において、「M&A」、「DX投資」、「株主還元」の3本柱をキャッシュフローの中心に据え、持続的な成長と資本コストを意識した企業価値向上の両立を図っています。

当連結会計年度における資金使途は右記の通りです。特にM&Aを積極的に実施するとともに、自己株式の取得を含め高水準の株主還元を実施しました。

新中期経営計画2027 重点施策

キャッシュフローアクション **実績**

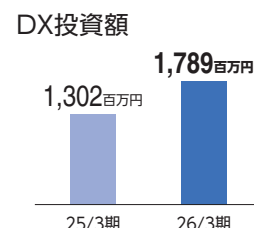
既存事業・新規事業両面でM&Aを実施



2025年8月に株式会社JBAホールディングスをグループ会社化し、決算・開示支援を一層強化しました。その他、7ページに記載の通り新たなビジネス領域である人財採用支援サービスの強化を含めM&A・アライアンスを積極的に推進しました。

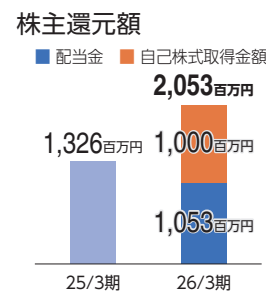
詳細は次ページ参照

システムサービスを中心とした積極的なDX投資を実施



開示書類作成支援システム「PRONEXUS WORKS」や、投資信託書類作成支援システム「PRONEXUS FUND DOCUMENT SYSTEM」等の継続的なバージョンアップや機能開発を行いました。

自己株式も含め高水準の株主還元を実施



当連結会計年度の業績が目標を上回ったことから期末配当金を当初予想の18円から4円増配し、22円に上方修正しました。また自己株式の取得も重視しており、4年ぶりに854千株・1,000百万円の自己株式を取得しました。

M&A・アライアンスの状況

会計コンサルティングファームへの進化



公認会計士を中心としたプロフェッショナルファームである「株式会社JBAホールディングス」および傘下の7社を2025年8月にグループ会社化しました。これにより、当社グループは決算から開示書類作成支援までの一連のプロセスを総合的に支援する会計コンサルティングファームとなり、上場会社のお客様への支援力を高めました。

2025年8月28日付公表「株式会社JBAホールディングスの株式取得(子会社化)に関するお知らせ」
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7893/tdnet/2681232/00.pdf>



システム開発・機能強化



上場会社向け開示書類作成支援システム「PRONEXUS WORKS」をはじめとした既存システムサービスの強化を目的に、2026年2月に「株式会社ナレッジベース」をグループ会社化しました。

当社システムサービスの機能強化を中心に、新サービスの開発にも取り組む予定です。さらにグループ社内でのDXを推進してまいります。

株式会社ナレッジベース Webサイト
<https://knowledge-b.jp/>



人財採用支援サービス強化



当社の新たなビジネス領域である人財採用支援サービスのさらなる拡大のため、「株式会社アクセスグループ・ホールディングス」と2025年1月から資本業務提携契約を締結しています。さらに2026年2月には追加出資を行い、お客様への共同提案を行っています。両社の経営資源を相互活用し、より一層の企業価値向上を図ってまいります。

2026年1月30日付公表「株式会社アクセスグループ・ホールディングスの第三者割当増資引受けに関するお知らせ」
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7893/tdnet/2747390/00.pdf>



サステナビリティ情報開示支援サービス拡充



サステナビリティ分野の開示ソリューションの共同開発のため、2026年3月に「Booost株式会社」と資本業務提携を開始しました。

同社が提供するサステナビリティERPと当社のシステムサービスの高度な連携を推進し、サステナビリティ情報開示の義務化や充実に対応してまいります。

2026年3月26日付公表「Booost株式会社との資本業務提携およびサステナビリティ開示分野における統合開示ソリューション(システム連携)の共同開発に関するお知らせ」
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7893/tdnet/2780875/00.pdf>



コミュニケーションルーム
COMMUNICATION ROOM

**第4回株主様向け
オンラインイベント
開催報告**

開催概要

**開催日時：2025年12月15日(月)
19:00～**
開催方法：オンライン
参加者数：約140名



オンライン配信中の様子▶

夜景が素敵なスタジオからお送りしているように見えますが、実は今回のために制作したオリジナルバーチャル背景を使用しています。また事前の台本作成支援、当日運営に係るオペレーター、撮影機材の用意等、株式会社シネ・フォーカスを中心に当社グループのイベント支援スタッフのサポートのもと開催しました。



2025年12月に第4回株主様向けオンラインイベントを開催いたしました。当日は多数の株主様にご参加いただきありがとうございました。質疑応答やアンケートを通して様々なご意見・ご質問をいただき、株主の皆様と交流を深めることができました。

株主様から「戦略をもっと知りたい」というご意見をいただいておりますので、今回は新たなビジネス領域のひとつである「決算・開示アウトソーシングサービス」についてご紹介しました。

プロネクサスグループにおいてプロフェッショナルサービスを提供する株式会社ディスクロージャー・プロ、株式会社JBAホールディングスの紹介を交えながら説明を行いました。

また株主様からいただいたご質問とそのご回答を次ページにて一部ご紹介いたします。

株主様に当社をより深くご理解いただく機会として、今後も情報発信の充実に努めてまいります。また、本イベントで得たご意見をもとに顧客向けサービスの充実を図り、事業の拡大につなげていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



アウトソーシングと従来の業務委託とはどのような点が異なるのか、具体的に教えてほしい。



当社グループのサービスは単なる入力代行ではありません。決算開示に精通した担当者が基礎資料から適切に財務諸表の数値を入力します。金融庁に提出する開示専用データXBRLに対応した当社独自システムを熟知しているため、迅速に当該データを作成することができます。また当社グループの公認会計士が監督者として、お客様の窓口になり相談を承ります。お客様の立場に立って専門かつ総合的にサポートする体制は、簡単には構築できないと考えています。



AIによって代替される事業のように感じます。生成AIの導入状況と、今後の戦略を教えてください。



生成AIは単純作業や定型的な文書作成、データ抽出・チェック等の業務を代替し得る技術であると認識しています。当社としても生成AIの活用は重要な機会と捉え、一部業務で導入・検証を進めております。ただし、開示分野のように誤りが許されない領域では、最終判断や監査対応は人が責任をもって対応する必要があります。事業理解に基づく高度なコンサルティングや顧客折衝等は専門家の判断が不可欠で、これらは当社の競争力の源泉であると考えています。今後は、生成AIによる単純作業の自動化で業務効率を高めつつ、その余力を付加価値の高いサービスの強化に振り向けてまいります。



決算・開示アウトソーシングサービスは、どの程度業績に寄与するものと見込んでいますか？



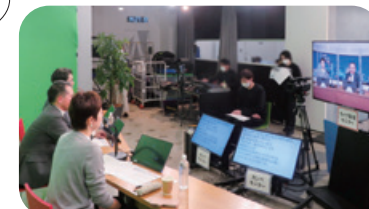
当社は2,000社を超える上場会社とお取引をしており、当該サービスの利用は現状300社程度です。利用状況からみて成長余地は大きく、また人手不足や開示の高度化を背景に、管理部門の業務をアウトソースすることが一般的になってきていることも追い風になっています。当社グループの強みであるシステムによる業務効率化と高品質なコンサルティングに加え、アウトソーシングによる実務負荷の軽減を通じて、さらなる顧客満足度の向上に努めております。

なお、イベント当日は決算発表前につきご回答できませんでしたが、売上収益について追加でご案内いたします。決算・開示アウトソーシングサービスは根強い業務効率化ニーズにより堅調に推移し、株式会社JBAホールディングスのM&A効果も大きく寄与したことで、2026年3月期の当該サービスの売上収益は前年同期比1,430百万円増(同137.5%増)の2,470百万円となりました。

お知らせ 2025年12月に公式X(旧Twitter)を開設

情報発信の充実に対する株主様のご期待も踏まえ、2025年12月に公式X(旧Twitter)を開設いたしました。公式Xでは、決算情報やリリースの配信に加えて、グループ会社の最新情報やセミナー案内、日々の取り組みとその舞台裏等も発信しています。当社グループに関する日々の情報チェックとして、ぜひご活用ください。

表紙のQRコードから!



株主様向けオンラインイベントの舞台裏も投稿



Webサイト「決算・開示アウトソーシングサービス」
もあわせてご覧ください。
https://www.pronexus.co.jp/lp/bpo_01/



「第82期中間報告書」の「PRONEXUS TREND」も
あわせてご覧ください。
<https://report-k.pdcp.jp/7893/202512/a/trend/index.html>



株主還元、株主優待

基本方針

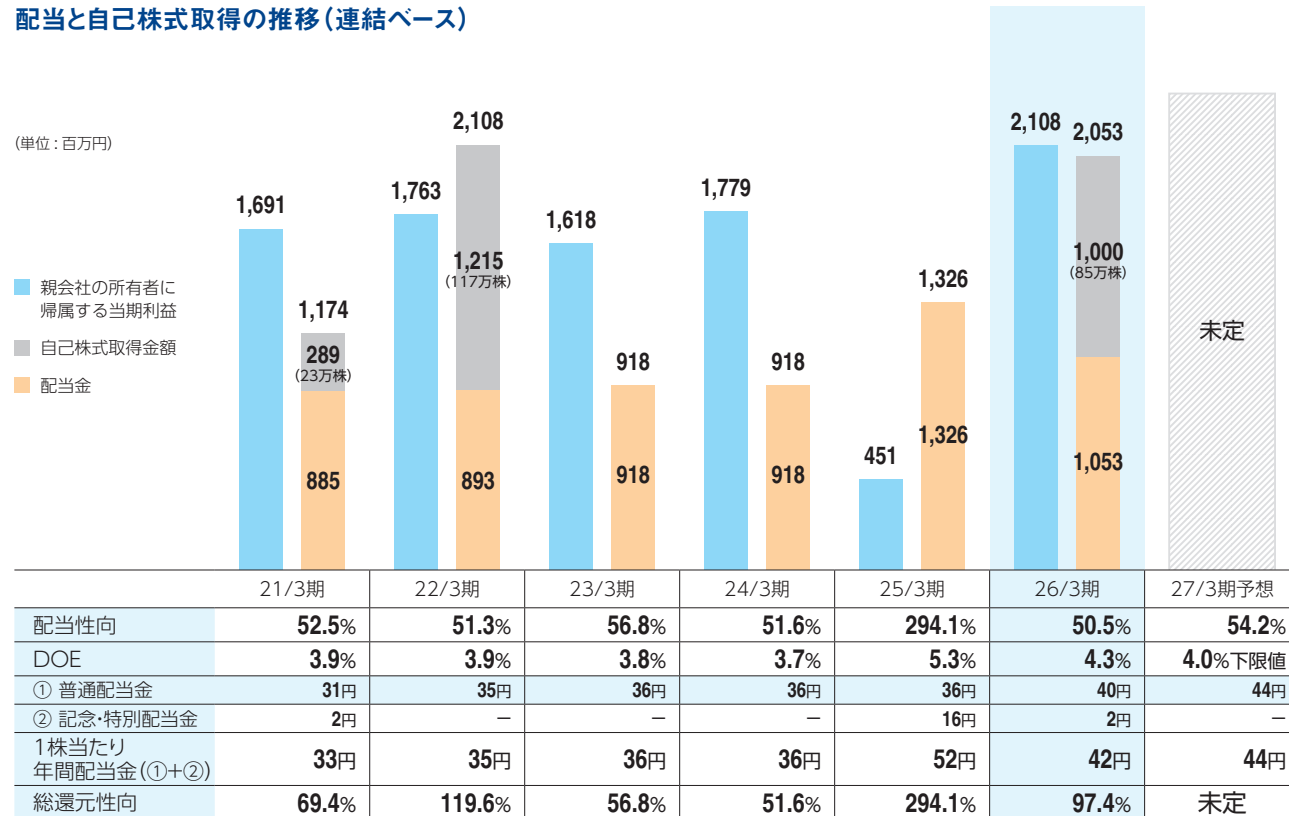
株主様に対する利益還元を経営の重点課題と考え、安定配当をベースに業績および経営環境を総合的に加味した配当の継続を基本方針とし、DOE(連結親会社所有者帰属持分配当率)4.0%を下限とし、かつ連結配当性向50%以上を基準とする

2026年3月期の配当金について

すでに実施済みの第2四半期末配当金20円(普通配当18円・創業95周年記念配当2円)に、期末配当金22円を加えた年間配当金42円となります(DOE4.3%)

配当と自己株式取得の推移(連結ベース)

(単位:百万円)



総還元性向=(配当金+自己株式取得金額)÷親会社の所有者に帰属する当期利益×100

※2025年11月11日~2026年3月11日の期間にて自己株式取得を実施。(取得株式総数854,600株、取得価額総額999,946,867円)

株主優待制度

当社株式への投資魅力を高めることを目的に株主優待制度を導入し、所有株式数と保有年数に応じてQUOカードを進呈しています。

【対象】毎年3月末日の株主様

所有株式数	保有年数*				
	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上
100株以上	500円分	1,000円分	1,500円分	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	1,000円分	3,000円分	5,000円分	7,000円分	10,000円分

※保有年数:同一の株主番号が株主名簿に継続して記載されている年数



15年前に株式を100株購入し、株主になりました。その後、数年かけて株式を追加購入し、基準日時点で1,000株以上を所有しています。この場合、株主優待はどれに該当しますか。



「10年以上、1,000株以上」に該当します。所有株式数は、支給対象となる基準日時点の保有数で判定されますので、過去の所有株式数は問いません。

保有年数は、同一の株主番号で継続して株主名簿に記載されている年数が基準です。株主番号が変更になった場合、いかなる事情によりましても保有年数はリセットされ「1年未満」となりますので、ご注意ください。

貸株サービスを利用した場合や、一度すべての株を売却して買い戻した場合、株式名義人を変更した場合等に、株主番号が変更になる可能性があります。証券会社毎に扱いが異なりますので、詳しくはご利用の証券会社へご確認ください。

株主メモ

事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

基準日

定時株主総会3月31日/期末配当金3月31日/中間配当金9月30日

株主名簿管理人特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-232-711 (通話料無料/土日祝日を除く平日9:00~17:00)

(郵送先)

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

公告方法

電子公告により当社ホームページ (<https://www.pronexus.co.jp/>) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。お手続きの際は、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内について
市区町村から通知されたマイナンバーは株主様から口座を開設されている証券会社等にお届出をお願いいたします。



2026年5月14日付公表「配当方針の変更および2026年3月期配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」もあわせてご覧ください。
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7893/tdnet/2811636/00.pdf>

